

IJF、ランキングシステム導入へ

国際大会を格付け、ポイントによってオリンピック出場切符獲得へ

IJFの臨時総会('08年10月21日・バンコク)にて、「世界柔道ランキングシステム」の導入が承認された。世界の主要国際大会が格付けされ、出場選手には大会の「格」と成績、さらには開催年に応じたポイントが与えられる。オリンピックの出場権はこれまで国別に与えられてきたが、今後はこの獲得ポイント数によって選手個人に「オリンピック切符」が与えられる。細部については変更の可能性もあるが、現段階での概要は次の通りである。

●国際大会の格付け

「世界柔道ランキングシステム」はオリンピック、世界選手権、その他大会の格付けを明確にし、その「格」に応じて入賞ポイントを定め、選手が獲得したポイントによって各階級ごとのランキングが出来上がる仕組みである。

オリンピック、世界選手権を頂点として、新設されたマスターズ、次いでこれまでのフランス国際、ロシア国際、嘉納杯東京国際、ブラジル国際など4大会がグランドスラム、その下にグランプリが5大会、ワールドカップ17大会と、新設の大会が格付けされた。

●入賞ポイント

各国際大会は、その格に応じたポイントが与えられる。優勝者のポイントはオリンピックの600点を最高に、世界選手権500点、マスターズ400点、グランドスラム300点、グランプリ200点、ワールドカップ100点と続く。

優勝者以外にもポイントが与えられるが、準優勝は優勝者ポイントの60%、3位は同40%と段階的に下がり、1勝以上の選手全てにポイントが与えられる(世界選手権のみは出場ポイント

が付与)。

また、4年ごとのオリンピックを頂点としているため、同じ大会でも直近年の大会をより重視している。よって、オリンピックの前年は75%、2年前は50%、3年前は25%のポイントとなる。

大会は開催月から次年度の開催月までを1年と計算する。よって、嘉納杯は'09年の12月から'10年の12月の嘉納杯直前までが50%、'10年12月から'11年12月までが75%、'11年12月から'12年12月までが100%となる。オリンピック前年の嘉納杯は100%カウントされる。

●オリンピック出場権

ランキングシステムの導入によって、これまでと大きく異なるのがオリンピックへの出場権である。

従来、オリンピックの出場権は各国別に与えられていたが、今後はランキングに基づいて選手個人に与えられる。

一方、各大陸枠もこれまで同様に用意され、各大陸連盟の加盟国に応じた枠を配分することになっている。

ランキングシステムによって格付けされた大会

1 オリンピック

2 世界選手権

09年オランダ、10年東京、11年フランス

3 マスターズ

【※新設大会。ランキング上位者のみに出場資格が与えられる】
09年 韓国

4 グランドスラム 【年間4大会】

2月 パリ (フランス)
5月 モスクワ (ロシア)
7月 リオデジャネイロ (ブラジル)【※新規大会】
12月 東京 (日本)

5 グランプリ 【年間5大会】

2月 ハンブルグ (ドイツ)
5月 チェニス (チュニジア)
6月 アメリカ (開催都市未定)
11月 北京 (中国)
11月 アブダビ (アラブ首長国連邦)

6 ワールドカップ 【年間17大会を予定】

1月 トビリシ (グルジア)
2月 ウィーン (オーストリア)
2月 プラハ (チェコ)
10月 パワー (アゼルバイジャン)
10月 ウランバートル (モンゴル) など

7 大陸大会

国際柔道連盟 (IJF) 試合審判規定の一部改正について

北京五輪以後、国際柔道連盟 (IJF) 試合審判規定の一部改正が決定した。

この改正点は、2008年10月20日、タイ・バンコクで開催されたIJF審判委員会において協議され、23日から開催された世界ジュニア選手権大会でテスト導入された。

その結果、特に問題なかったことからIJFでは2009年1月1日から正式に施行される運びとなった。

今回のルール変更ポイントについて
川口孝夫全柔連審判委員長に
解説をお願いした。



全柔連審判委員長
川口 孝夫

1. 「効果」の廃止

「効果」を廃止し、優勢勝ちの判定基準は「有効」以上とし、「有効」以上の得点差が無い場合には、ゴールデンスコアで勝敗を決する。現状の「効果」に相当する技の評価はしない。また、「抑え込み」の場合においても15秒未満は得点とはならない。

2. 罰則の基準 (「指導1」の場合は、得点としない)

「効果」の廃止に伴い、1回目の「指導」は得点とはせず、2回目の「指導」で相手に「有効」相当の得点が与えられる。但し、1回目の「指導」においても従来と同様に発声し、掲示板には表示する。

3. ゴールデンスコア

試合時間は3分間とし、「有効」を得た場合、または片方の試合者に2回目の「指導」が与えられた時点で勝敗が決する。3分間で得点差が無い場合は、旗判定で勝敗を決する。

4. 場内外の判断基準

立ち姿勢において、どちらかの試合者の一部でも場内にある場合は試合を継続するが、双方の試合者の全身が場外に出た場合は「待て」とする。

5. 相手のズボンを直接握ること

立ち姿勢における攻撃・防御の中で、直接ズボンを握った場合は、「待て」として「指導」が与えられる。但し、ズボンを握ると同時に施した大内刈や相手の脚を抱えて施す双手刈、朽木倒、掬投などを掛けることは認められる。

6. 次の禁止事項を犯した場合は、より厳格に対処する

- ① 腰を曲げ、頭を下げた低い姿勢を取り続けること
- ② 偽装的な攻撃をすること (掛け逃げ)
- ③ 組み手を嫌うこと (早めに双方に「指導」を与える)。また、自分の襟を押さえたり、ただ相手の後襟を上から押さえつけて相手に組ませないようにすること。

7. 敗者復活戦は、ベスト8に進出した選手のみが対象となる

4. 場内外の判断基準

解説

「場内から攻撃動作が始まった場合に限って」の考えは削除され、どちらかの試合者の一部が場内にある場合は攻撃・防御に関係なく、また止まっても動いても「待て」としない。しかし、双方が組み合っていない場合に片方が場外に出た場合、従来どおり「指導」が与えられる。「待て」が少なくなり選手に疲労が蓄積し易いが、進行が早まる傾向にある。

例

場内にA、場外にBが立ち姿勢で組み合った状態で静止していたとき、Aが大外刈で攻撃したのでBはさらに後方に下がった場合、Aの軸足が場内に残っている場合 (空中にある場合も含む) に限りその投げ技は評価され、Aの軸足が場外に踏み出した瞬間に「待て」となる。また、同様の攻撃があった場合、Aの軸足が場内に残っている間にBが返し技で瞬時に投げた場合、Aの着地した場所が場内であっても場外であってもその返し技は評価される。その場合、結果的にA・Bとも場外にあることが予想される。

5. 相手のズボンを直接握ること

解説

立ち姿勢において直接ズボンを握る行為が禁止される。許されるものは、大内刈を掛けると同時に握ること、また「肩車」・「掬投」等の技に入った瞬間は手で抱えたが、技の延長線上で結果的にズボンを握った場合は認められる。但し、ズボンを握るタイミングが早いと判断された場合は「指導」が与えられる。

宮内庁御用達

懐石料理 **青山**

今酸素カプセルを利用して健康生活を送る人が増えています

ASSIST 株式会社 アシスト

http://www.assist-v.co.jp

スペースの有効利用を考えた

Fujitas.

フジタス工業株式会社

本社 工場 〒477-0863 名古屋南区豊三丁目5番17号 TEL: (052) 691-1005 FAX: (052) 691-8592